



画家の家

農家兼シェフの家

音楽家の家

小説家の家

林業家の家

豊かなものの伝承

こどもが育ち、こどもで育つ

ここにある5軒の家
 この人たちは、独身の人や夫婦など、職業も様々
 共通することは、自分にはこどもがいないが次世代のこどもたちに
 何かしてあげたいと思っていることだ

そしてこの土地に集まった
 彼らは自分の余生を楽しむ終の住処をこどもたちも楽しめる場所に
 して欲しいと設計を依頼する

子供たちが安心してこの場所で暮らしてもらうためには
 どうしたらいいだろうか
 地域の人たちに愛された場所にするのがこどもたちの安心に繋がるの
 ではないだろうか

彼らは彼らなりに地域の人たちに愛される空間を作り始めた



彼らは終の住処に自然は必須であると考えた
 そしてこどもたちにも

彼らの一人は朝日がきれいに見えることを望み
 彼らの一人は畑がある地を望んだ

一人は木々の隙間での生活を望み
 また一人は視点の違う二つの空間を望んだ

敷地に選んだのは温泉県道等の緑豊かな傾斜地
 南東側には開けた眺めが広がるロケーションの良い場所
 北西側には既存の田畑があり、住宅が多く
 人口は多いのでこどもも増えるだろうと考えた
 温泉地でもあった

画家の家

出窓が生み出す暖昧な空間

彼が終の住処に求めたことは風景の切り抜きから溢さることを切望することである
 そのため出窓を設計 しかし、彼らは内気な性格であり自立した家は好きでいらした
 そこで、出窓を奥の2重壁を設計し、暖昧な空間を作ることとなった
 その暖昧な空間には天窓から柔らかな光が降りることにより特別な空間とする
 ここはいずれもこどもたちが遊ぶ空間となるのであった

彼は自分のギャラリーを持ちたかった
 しかし、あまり自分が溢さる風情と関係のない家は
 つくりたくなかった
 そこで、大きな窓は地面に置いた所だけにし、
 壁に透かすような色合いのギャラリーとした
 このギャラリーもまた暖昧な空間の中に存在するのであった

こどもはトンネルのように遊ぶ

このギャラリーは上から覗き込んで
 気になった人たちが覗きこめるようになった
 彼はそんな人たちに少しずつ心を寄せ、
 ついに地域のこどもたちに
 心を寄せてあげることができた
 最初は少なかった生徒が徐々に多くなり
 ついに自分の家では教えることが出来なくなった
 そして彼は近くのデパートを利用し、
 青空教室でこどもたちを教えることになる
 海のそば近くの林業の家の半屋外を借りて、
 時には農家の物産を揃えて、少しずつ
 周りに繋がるようになったのであった

朝日が見える風景の窓
 30度の角度を固定

農家兼シェフの家

畑と段差の中の生活

人物が終の住処に求めたことは、自分の畑を見渡せる程と大きな畑だった
 畑の畑を持ち、自らが育てた野菜で手料理を振る舞いたいと考えているようだ
 そこで、段々畑と共に生活するような敷地を利用した家を設計した
 意は山頂に集まっているが、基本的には畑に向いた敷地となっており、
 野菜の収穫や季節を感じるような空間とした
 段差によって生まれた空間に息を吐き出した天井高はレストランは高く、
 農のプライベートな空間になるにつれ、住宅スケールになるよう考えた

彼の家はレストランやマルシェをする
 このレストランは段差により
 リビングダイニングは見えないように設計し、
 奥にある大きな窓から景色が抜けるようにした
 また、マルシェに使われる段差はこどもが居ると
 たまたま景色のいいホール空間となった

このレストランは美味しいと評判になり人気レストランとなった
 彼はこどもたちには畑作業から学ぶことがあると考えよく地域のこどもたちに畑作業をさせた
 近くにあった田畑を育てている地域住民とも仲良くなり畑を貸してくれることとなった
 最近音楽家の隣人と話し合い、演奏を聴きながら食事を楽しむようなイベントを計画している

眺め開かせや発表会でも使える

下は畑作業する

お風呂から見える景色

特設的にクライミングロープに変わる

小説家の家

本とこどもと地域図書館

私が終の住処に求めたことは沢山の本に囲まれた空間
 地域の人が本に愛される図書館
 またこどもたちの秘密基地である
 自然を眺めたり、気分によって執筆する場所を変えたり
 そんな空間が欲しい 本を景色や光の変化に利用できないだろうか
 そんな私の要望から建築体は本棚とし、
 自分で本を入れることで空間を構成していくを設計
 シンプルな本棚の建築だが機能ははみ出し、
 人が寄り寄り出来るように壁は最低限となった

この図書館はその変わった建築と
 図書館という機能から地域に
 愛される場所となった
 近くのピアノ教室や絵画教室に
 こどもも通わせている親たちが
 まだ小さいこどももやってきた
 こどもたちはこの場所を気に入り、
 こどもたちしか入ることができない
 秘密基地を作っているらしい
 私は彼が羨ましく思いまた執筆に励むのであった

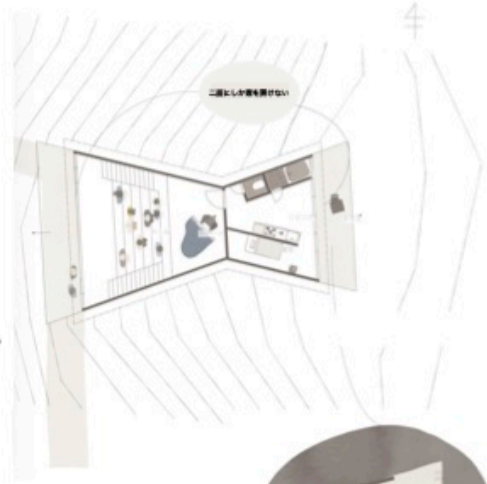
外まで眺めもある

家の中は本棚が壁として壁でも利用出来るようにした
 また、こどもしか通れないような場所も沢山の山頂に、こどもの空間を作った
 本好きの人から本が分らない小さなこどもたちまで沢山の山頂の人に利用して欲しいという願いが詰まった地域図書館が生まれた

音楽家の家

斜面に帯する2つの生活

彼女が別の住居に求めたことは小さなホールと自分の住まいだ
しかし、同じ家で違った空間にして欲しいらしい
このことからわざと1層高な斜面を敷設都市
斜面に対する空間と斜面から覆れる空間の二面性を持たせた家を設計した



二面性を持つ空間

窓も大きく、しかし互いに一方だけ向き、ホールでは森が一面に広がり、住まいでは演奏から覆れ、視を見ながらリフレッシュする空間を設計した
この家は公共になると、住まいの壁を取り外し、ホールと大きなテラスとして利用する



音楽家のためのデスク



始めは森で静かに演奏してきたが、素晴らしい演奏に次々と人が集まり、沢山の人が集まるようになったもうすぐ子どもたちも楽しんでもらえるように斜面を活かして遊び場を作るらしい



斜面を活かした遊び場

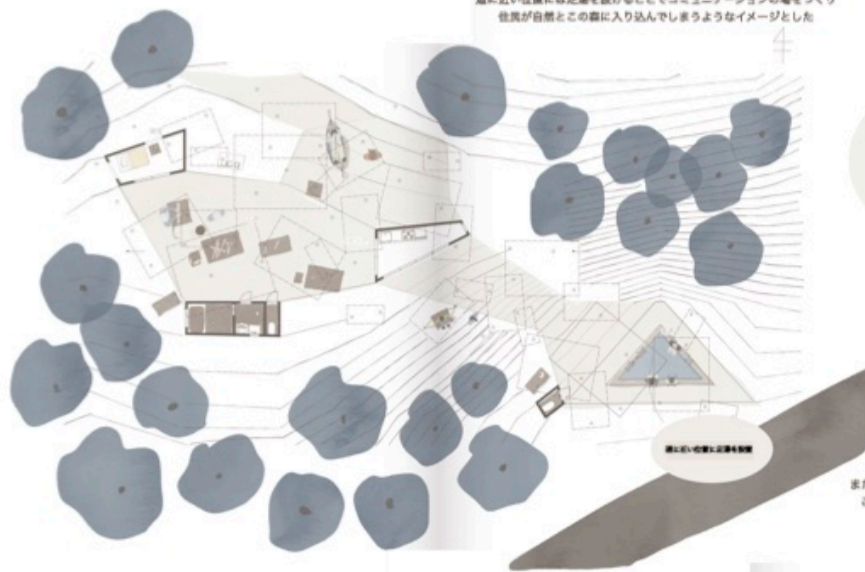
林業家の家

森の中に住む

彼が別の住居に求めたことは木々の中でのびのびとした暮らしである
そのため半屋外の空間で木々の間で生活できるように、広い既存の土地にそのまま住まいを設けることとした
また建築が木々の肌質をしないように半屋外の空間は柱のみとし、屋根にも高さの変化や重なりなど変化を持たせることでより有機的な建築とした



道に近い位置には近道を設けることでコミュニケーションの場をつくり
住居が自然とこの森に入り込んでしまうようなイメージとした



森の中の生活空間



森の中の生活空間

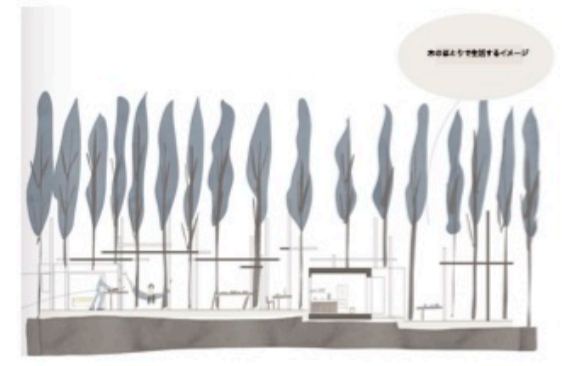


森の中の生活空間

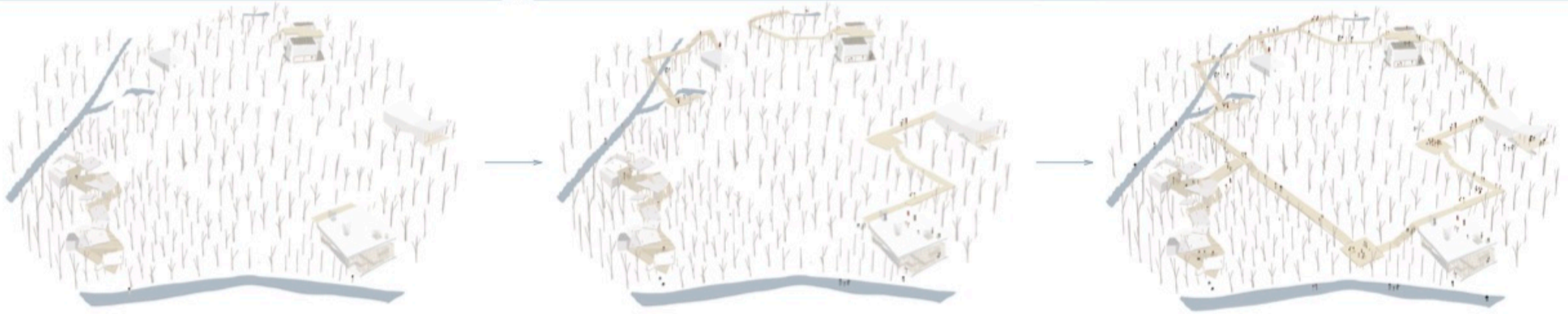
また、ここに来た人たちに工務体験としてデッキを作ってもらい
ここに沢山の人が来るほどデッキが完成していきようにした
たときに、地域の人たちに愛される空間となるように



昔はここで地域の人が、子どもたち、この集落に暮らす人たちに様々なものをつくっているようだこの集落の暮らしの中でのびのびと暮らしているのだ



森の中の生活空間



自然と寄り添いながら暮らす人々の道の延長として建物の屋根や地面から伸びたデッキはそれぞれの住まいを結び活動の場となり、この森の空間を繋ぐ

この道はきっと未来に繋がっている